

令和5年度第1回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日 時	令和5年7月19日（水）14：00～15：00
会 場	市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	委 員：中野会長、渡辺副会長、村田委員、石塚委員、相田委員、 山田委員、加々見委員、小塚委員、矢坂委員 （欠席委員）佐藤委員 事 務 局：平岡教育部長 子育て支援課 小林課長、相場子どもの育ちサポートセンター長、 伊藤主任、諸橋主任、竹中幼保小連携推進員 学校教育課 熊倉課長 報道機関：なし 傍 聴 者：なし
会議内容	
	1 開 会 午後2時開会 2 挨拶 平岡教育部長挨拶 3 各委員及び事務局自己紹介 【出席者数の確認】 【資料確認】 4 議 題 (1) 三条市幼児教育推進プラン（第2次）実施状況について（報告） 小林課長（別紙資料1に基づき説明） 【質疑】 中野会長 2ページ目の「特別な配慮が必要な子どもへの支援」のところで、発達障がいへの早期の気付き、関係機関との連携はシステム化されてきているが、長期にわたるとシステムの意義や意味が伝わりにくくなってくる。三条市子ども・若者サポートシステムの趣旨や真意がどこにあるのかについてはしっかり伝えてほしい。 小林課長 研修会や実務者会議など様々な機会において説明し、全ての関係者が内容をしっかりと理解できるように努めていきたい。 (2) 三条市幼児教育推進プラン（第3次）について（報告） 小林課長（別紙資料2に基づき説明） 【質疑なし】

小林課長	(3) 保育士人材育成計画概要(案)について (別紙資料3に基づき説明)
村田委員	<p><b>【質疑】</b></p> <p>職員の育成で1番大事なことは、園内の研修だと考えている。その園内研修を誰が実施するのかという視点が重要である。園長が責任を持って実施することはもちろんであるが、当園では先輩職員が後輩の育ちをイメージし、全ての職員が人材育成の当事者なのだという意識を持っていかねければと思っている。担うのは誰かが大事である。</p>
中野会長	<p>当事者として園長、主任、責任ある立場の人はもちろんであるが、三条市全体としてできることなど、責任と範囲といった枠組みをどのように考えているのか。</p>
小林課長	<p>まずは園内において当事者意識をもってもらい、園長や主任を中心として園内でできる取組を実施してもらおう。それ以外に、三条市として園外でできる取組について、近くの園との連携等も含め整理をし、園内研修、園外研修、自己学習という視点で委員の皆様から取り組みのアドバイスを頂きながら取りまとめていきたい。</p>
中野会長	<p>園外研修では、市としての企画や県保育士会等と連携を取りながら、実施していけるが、園内研修のサポートもあると良いのではないか。</p>
平岡部長	<p>人材育成の基本というのは、園長、所長に責任がある。その上で主任や先輩がOJTを行うことなどはあくまでも手段である。その枠組みを作っていくのが園長や所長の責任と考える。園外研修においては、市としてできることを考えていかなければならない。できる研修やメニューの用意は市としての責任である。全体として人の育成というのは、それぞれにおいて責任分担を図り成り立つものである。繰り返しになるが直接的な部下の育成は一番は長の責任であると考えます。</p>
村田委員	<p>一番の責任は長であることは間違いない。市内の全ての園が同じねらいや考え方ではないので、一律なものではなく、いろいろなメニューを準備してもらい、その中からできることを各園で実施していけると良い。</p>
中野会長	<p>あまり市が関与しすぎて、全ての園に報告を求めることになると実施が難しくなる。市がメニューや資料を紹介し、予算も限られているので、園からの手挙げ方式的なことも考えられるのではないか。ある程度は一律に資質向上を図る中でも、頑張ろうとする園を応援する等、意識を高めるこ</p>

	<p>とと一歩先に進んでいくということは意味が違ってくるので議論していければと思うが、委員の意見を伺いたい。</p>
石塚委員	<p>育成というところの取組では園内研修が身近なことであると思っている。日々の語り合いや振り返りなど、若手保育士だけでなく、若手を育てるリーダー的保育士も保育の振り返りを行うことで、保育者として育つ機会になると考え、忙しい業務の中で時間を確保し、着実に進めていかなければならないと思っている。</p>
渡辺副会長	<p>人材育成という課題はどここの園でも抱えている問題である。20代、30代の若い保育者が増えているが、若くて経験の少ない先生が必ずしも資質がないとは思っていない。若い保育者だからできることがある。育成の方向性にある、子どもの主体性を引き出すとか、未熟なりにも一生懸命取り組んでいる姿は現場で見ている。何が必要かは、当園の場合は経験豊富な保育者達がいかにマネジメントするかだと思っている。自分の考えを押しつけるのではなく、経験は少ないけれどもやる気のあるところをいかに活用してあげるか、いかに良いところを引き出してあげるかが重要である。人材育成計画の中にマネジメントのようなものを入れていけるとありがたい。</p>
小林課長	<p>マネジメントは大事な視点である。組織力をいかす園づくりや組織の中で自覚をもって保育することができるようマネジメントも計画に盛り込んでいきたい。</p>
中野会長	<p>マネジメント能力は、徐々に付けていかなければならない力である。何のために働くのかを学んでいかないと力が付かない。若い人が増えているからこそ意識的に次の世代を育て持続可能にしていくことが重要である。組織力が一番の肝になる。</p>
相田委員	<p>学校教員も、教員免許制度が廃止され、新しい研修制度が作られている。キャリアステージに応じた研修が必要とされる点では共通するものがある。園で必要なことを学ぶ研修と、こんな保育士になりたいという個が伸びる研修と、両輪でやっていくことが大事なのではないか。個人の研修はリモート等自分で積極的にできる環境を活用していける。</p>
山田委員	<p>中学校では、学年主任がミドルリーダーとして統括している。また、小中学校の場合は、夏休み等の長期休業期間で研修の時間を確保することもできるが、保育所(園)等では、日々忙しい中で研修の時間をどのように設定していくのか難しいのではと感じる。</p>

加々見委員	親も先生も人を育てることに違いがないが、先生方は個の良いところを引き出してくれている。人材育成は日々実践されていることが若い先生にも影響していると思っている。研修で思うことは、自分を高めるためには勉強が必要である。そして勉強の場は多くある。様々な講座等を市からも発信してほしい。
小塚委員	親として、日々一生懸命に仕事をされている先生方の姿を見ている。その上で勉強をされるということは大変ありがたいと思うが、無理なく身体を壊さないようにしてほしい。
矢坂委員	先生方の学びで、若い先生も伸び伸びした中で成長されることが、楽しみである。
中野会長	人材育成計画の対象は保育士を含む幼児教育に携わる保育者と定義づけたい。また勤務時間内の時間の確保と、研修の質を高めていくことの取り組みが課題であり、事例紹介等を考えていく必要もある。
相田委員	人材育成計画の対象保育者はどのように考えているか。イメージ的に若手対象とを感じるが。
小林課長	新規採用職員から所長、園長先生まで、全ての保育者を対象とし職位や職責に応じたスキルマップを作成したいと考えている。
中野会長	スキルマップについては、県や市、教員や管理職用のものがあるが、そのようなものを想定しているのではないか。
小林課長	そのとおりである。
中野会長	それでは、質疑も出つくしたようなので、保育者人材育成計画概要(案)について承認をいただけるかお諮りしたい。
	<b>【異議なく承認】</b>
中野会長	これで、本日の議題は全て終了した。最後に次第5「その他」について事務局からお願いしたい。
	<b>5 その他</b>
小林課長	本日は、様々な御意見をいただき感謝申し上げたい。今回の意見を踏まえて保育者人材育成計画とスキルマップを取りまとめ、御意見を頂く機会

として、9月から10月頃に次回会議を開催したいと考えている。日程が決まったら、改めて御案内させていただく。

6 閉 会 午後3時閉会